

海外の採血に係る制度（研修等）について

英国

- **特に資格はなく**（医師や看護師である必要もない）、病院等におけるOJT（オンザジョブトレーニング）により訓練されるものとされている
- 病院の訓練生に応募することで採血士（Phlebotomist）のキャリアをスタートすることが通常
- **通常、病院等は採用時に、GSCE（16歳時の中等教育修了一般資格）**やBTEC（職業資格）を求める。実務経験を求めることもある
- 採血のために必要な知識に係るNPO団体によるガイドラインがある（CHS132 National Occupational Standard for Phlebotomy）
- 医療用の針の取り扱いに関する規制がある（Health and Safety (Sharp Instruments in Healthcare) Regulations 2013）（実用可能なより安全な針を利用する義務、従業員へのトレーニングに関する基準等）
- 上記に準拠した民間のトレーニングプログラムがある（例：Phlebotomy Training Servicesによる2日間のトレーニング）

（参照）

英国：<https://phlebotomytraining.co.uk>

<https://www.hse.gov.uk/pubns/hsis7.pdf>

米国：<https://nurse.org/healthcare/how-to-become-phlebotomist/>

<https://www.cdph.ca.gov/Programs/OSPHLD/LFS/Pages/Phlebotomist.aspx>

カナダ：<https://cchap.ca/practicing-phlebotomy-in-ontario/>

米国

- 制度は州によって異なるが、民間団体である National Phlebotomy Association (NCA) による**“Phlebotomy Certificate”の取得が要件**となることが一般的
- 同資格は、通常、**専門学校や大学で1年以内に取得**することが可能（40時間の実務研修等を含む）。**大学卒業が求められない資格**として人気。
- LPT（皮下注射）、CPTI（静脈注射）、CPTII（動脈注射）の3段階の資格がある
- 州による資格がある場合もある（カリフォルニア州等）

（参考：カリフォルニア州）

- 未経験者：40時間の基礎研修、40時間の実習研修（50回の静脈穿刺等を含む）
- 過去5年で40~1040時間の経験者：40時間の基礎研修（+過去の50回の静脈穿刺等の実績証明書の提出）
- 過去5年で1040時間以上の経験者：20時間の発展研修
- 上記のいずれかを満たした上で、national certification examinationに合格する

カナダ

- 州によるが、例えばオンタリオ州では、**原則、医師や看護師に限られている**
- コロナワクチン等については、一部の薬剤師が実施できることとされている
- しかし、採血のための静脈注射等を医療機関等に**雇用されている者が実施する場合は、医師等でない従業員であっても実施可能という例外があり、広く利用されている**
- なお、上記例外により無資格者が多く実施しているため、民間企業や大学が運営する（任意の）トレーニングカリキュラムも複数ある